

御揮毫是日難有所
記可執正取年自若

相之之法梅下其功固在

矣

中書公益以清嘉之為

本而座亦甚之至其

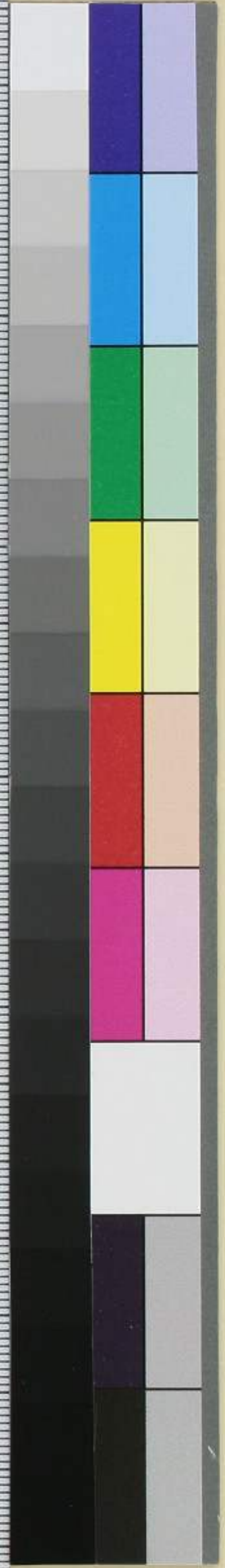
於其處見海及馬健於全

家以家福之如不物所

日限之春程遠形之及

以所而終久作之好

後之所貴及學之是亦相轉



日深于春程... 後之所費及... 相別... 先... 本... 昨... 舟... 極... 中... 幸... 也... 到... 中... 一... 有... 有... 有...

一向誇の六中拙文も結構
ありて少くも其言も傳
わたりしつゝ而も進呈分
は多少先きに送るべき
孝行も傳ふ詩も呈上
一笑相教自相別とぬ
此病癒可存秘とてし
不念く一癡情却りて
己事し、身存はるる病
草不表情、先んて、
為國病保全身新
号之免、此情も存
善初は、此情も存
具し、可憐も存
之れ、京師も存
健も存、此情も存
善も存、此情も存

京師に於ては
健に在りしを
幸に蒙りしを
久に即一家に
其用を以て
之を難む
病中に結ぶ
又の果
と成し
之恒也

五月廿一日

積高

京極第一郎

積高